

昭和大学藤が丘病院 20 周年記念誌

仮オープンを迎えるまで

初代薬局長 新井君子

私が昭和大学病院から赴任して来た時は、藤が丘病院の建物は完成しており、薬局各室の備品の大きな物は若干納入されておりましたが、細かい備品は未納でした。がらんとした室を如何に効率よく稼働出来るかなど、一緒に赴任して来たスタッフと相談してだんだん病院薬局らしく体裁が整って来ました。私と共に赴任して来たスタッフ薬剤師 6 名、事務職員 1 名の若さ溢れるグループでしたが、ゼロからの出発に皆協力してくれました。

他方病院開設の条件に地域との提携と言う事があり、薬局も院外処方箋を何%か出す約束があった様で、地区薬剤師会長からの何時頃から院外に処方箋出す予定かとの話がありました。私一存で処理する問題ではないので院長の小林先生の御指示を仰ぎました。ドクターの数も少なく多忙を極めており、とても院外処方箋を出せる状態ではないとの御指示、私もその状態は見ており地区会長にもう少しお待ちをとお願ひして来ました。話を院内に戻せば事務室に「開院まであと〇〇日」が掲示され院内が一致協力して開院に努力した日々は多忙でも充実した毎日でした。

当初は取引の卸がまだ決定しておらず、取敢えず昭和大学病院から借用と言う事でしたので、若し初日から薬の欠品で迷惑をかけてはと心配しておりましたが、幸い教授の先生方が在庫の薬品で協力頂いたのも忘れられません。

昭和 50 年 7 月 28 日オープン当日初の患者さんを迎える緊張と期待は、20 年経った今でも私の脳裏にあります。外来処方箋 22 枚、入院処方箋 1 枚で出発しました。以後順調に枚数は増加し薬剤師数も増えましたが、20 年の歳月で開設当初から活躍しているのは斉藤正志 薬剤師のみとなりました。

法の改正により医療職の薬剤師の責任は以前にも増して重くなり、地域の基幹病院、大学病院の薬剤師としての指導的立場も増して来ております。どうぞ縁の下の力の地味な存在でも病院には不可欠の薬剤業務をご理解下さりたいと思います。

最後に当時種々御助言を賜りました、院長小林太刀夫先生に感謝とお礼申し上げます。